

深大寺の由来

深大寺は、武蔵野の豊かな森の中に位置する都内屈指の古刹です。天平5年(733)に水神「深沙大王」を祀り法相宗の寺院として創建されました。寺を開いた満功上人の両親がこの神様のご利益で結ばれたことが開創の所以であるため、現在でも「深沙大王」は縁結びの信仰を集めています。

開創当初から伝来すると考えられる「釈迦如来像」は2017年に国宝指定を受け、寺院伝来の仏像としては都内寺院唯一にして、東日本最古の国宝仏誕生となりました。飛鳥時代後期に当時の文化の中心だった畿内で鑄造され、その後はるばる深大寺に迎えられたと推察されています。この時代の特徴である青年のような面立ちとみずみずしい肌の表現、衣の整った造形は国宝にふさわしい傑作とされ、台座に腰掛ける「倚像」という独特のお姿もこの時代ならではのものです。

平安時代になると天台宗に改まり元三大師像を奉安するようになりました。特に深大寺のお像は、坐像にして2mという、僧形の古像としては我が国最大の法量を誇るものです。厄除元三大師への信仰は江戸時代に隆盛を極め、ご祈願に訪れる参拝者はこんにちも絶えません。

また400年余りの歴史を持つ「深大寺そば」も有名で、深大寺周辺には多くのそば屋が並びたいへんな賑わいを見せています。

行事：

- ・1月 初詣、大護摩供
- ・2月3日 節分会豆まき式
- ・3月3日、4日 厄除元三大師大祭・日本三大だるま市
- ・4月下旬～5月上旬 なんじゃもんじゃコンサート
- ・5月下旬 薪能
- ・7月下旬 ほおずきまつり
- ・10月頃 十三夜観月会
- ・11月下旬頃 そばまつり

「深大寺そば」を有名にしたのは

江戸時代、深大寺の北の台地はそばの生産に向いていた為、小作人はそばを作り、そば粉を寺に納めました。寺ではそばを打って来客をもてなしたのが、深大寺そばの始まりと伝えられています。深大寺そばを有名にしたのは、元禄年間、上野寛永寺の公辨法親王に献上したところ、親王は大いに賞賛し、将軍家や全国の諸大名に広く推奨されました。そのため、深大寺そばの名が高まり、多くの家から「深大寺そば」の使者が立つほどになりました。

おすすめの散策コース

- 山門 ①
- ↓
- 鐘楼 ②
- ↓
- 常香楼 ③
- ↓
- ムクロジの木 ④
- ↓
- 本堂 ⑤
- ↓
- なんじゃもんじゃの木 ⑥
- ↓
- 中村草田男碑 ⑦
- ↓
- 高浜虚子像 ⑧
- ↓
- 参詣道標 ⑨
- ↓
- 元三大師堂 ⑩
- ↓
- 国宝「釈迦如来像」梵鐘 ⑪
- ↓
- 開山堂 ⑫
- ↓
- 延命観音 ⑬
- ↓
- 深沙大王堂 ⑭
- ↓
- そば守観音 ⑮
- ↓
- 国指定史跡 深大寺城跡 ⑯

深大寺の主な見所 紹介



①山門 慶応元年(1865)の大火から免れた。300年程前の元禄8年(1695)の普請で境内最古の建物である。



②鐘楼 慶応の大火後、明治3年(1870)この場所に再建された。重要文化財に指定された古い梵鐘を釣っていたが、平成になって「ひび」が見つかり、平成13年に新しく鑄造され釣り替えられた。今も、毎朝・昼・夕の3回撞かれている。古い梵鐘は⑪を参照。



③常香楼 慶応の大火の際に山門と共に火災から免れた。北側に大火の跡を残している。天保4年(1833)の建立で山門について古い建物である。



④ムクロジの木 無患樹あるいは無患子と書く。実は追い羽根の玉となる。非常に堅く鬼にぶつければ鬼と厄も一緒に退散するという。果汁は石けんの代用になり、湧水の地に多い。



⑤本堂 慶応の大火後、大正7年に再建。本尊は宝冠阿弥陀如来を奉安しており、頭部に宝冠を戴くもので、主に天台密教に伝わる金剛界曼荼羅に描かれている特徴的なお姿で、大変貴重なお像である。



⑥なんじゃもんじゃの木 和名を「ヒトツバタゴ」という。4月末～5月始めに白い清楚な花が咲き誇り、雪を被ったように見える。毎年この時期、東京消防庁音楽隊による「なんじゃもんじゃコンサート」が開かれる。



⑩元三大師堂 平安時代に活躍した比叡山の高僧、元三大師を祀るお堂である。元(1)月3日に縁が深いことから元三大師の通称で親しまれており、人並外れた霊力により数々の奇跡を起こしたことから「観音の化身」、「厄除け大師」として多くの信仰を集める。



⑩秘仏「元三大師像」 深大寺の元三大師像は坐像にして2メートルにも及ぶ、他に例を見ない巨大なお姿で、僧形の古像のなかでは日本最大の法量を誇る。
※秘仏の為、普段は直接拝むことはできません。



⑪国宝「釈迦如来像」 平成29年に国宝に指定され、寺院伝来の仏像としては都内寺院唯一にして、東日本最古の国宝仏である。飛鳥時代後期(白鳳期)の傑作とされ、青年のような面立ちと流麗な衣の表現、台座に腰掛ける「倚像」という姿はこの時代の特徴的な姿である。



⑪梵鐘 国の重要文化財。鑄造は北朝年号の永和2年(1376)といわれ、都内で3番目に古い鐘である。現在は釈迦堂に安置されている。



⑫開山堂 昭和58年の開創1250年大法会記念事業として新築された奈良時代様式の堂宇である。本尊に薬師如来、脇侍に弥勒菩薩、十一面観音を奉安し、深大寺を開いた満功上人(写真右)、宗派を天台宗に改めた惠亮和尚の尊像を奉安している。



⑬延命観音 昭和41年秋田県象潟港の工事に際し、海底の大石を引き上げたところ、慈覚大師自刻の延命観音が刻まれてあり、縁あって深大寺に奉安された。



⑭深沙大王堂 深沙大王は、江戸時代まで深大寺の総鎮守で、このお堂は元三大師堂と同じく参詣の人が絶えなかった。明治の神仏分離令で破却され、昭和43年に再建された。深沙大王像は、秘仏で住職が在任中に一度拝める程度であるという。



⑮そば守観音 昭和38年造立され、日本に1体しかないという。毎年秋の「そばまつり」には、境内で蕎麦を打ってお供えする蕎麦献供式が行われる。



⑯国指定史跡 深大寺城跡 平成19年に国の史跡に指定。16世紀前半に南関東の覇権を争う小田原北条氏と扇谷上杉氏の攻防のなかで、扇谷上杉氏が再興した戦国時代前期の城館跡。当時の空堀、土塁、腰郭などの遺構を残す。